



「大好きな下北沢のまちを壊さないで」と訴えたサウンド・パレード＝17日、世田谷区

区長は話聞いて

都計審
まえに
街壊す再開発反対

路地の両側に小さな商店や小劇場が並ぶ独特な雰囲気がある若者に人気の世田谷区下北沢地域を再開発から守ろうと十七日、地元商店主や住民、若者ら二百人が、サウンド・パレードを行いました。地元商店などでつくる「54号線の見直しを求める下北沢商業者協議会」(大木雄高代表)が、呼びかけたものです。

店主ら200人

パレードは、地元で公園(同区若林)では、活動する音楽家らの演奏、店主らがマイクを握り「下北が好き」「再び」区長は、住民の声を聞いて「三十三年」と書いたプラカードを掲げて行進し、沿道の人たちの注目を集めました。パレードの解散地点となった若林

休みをとって参加した女性会社員(三巴)は「学生のころ、よく下北沢に買い物に来た。人にやさしい、人が集まってくる街を、再開発でどこにでもあのような街にしないほしい」と話しました。

同区は、十八日の区都市計画審議会に小田急線下北沢駅の駅前商店街に最大幅二十六メートルの都市計画道路(補助54号線)を通し、高層ビルを誘導する再開発計画「下北沢駅周辺地区地区計画」案を諮問する予定です。

同協議会は、地元の五百十店舗から賛同を得て、同計画の見直しや協議の場の設置を求める要望書を区に提出しています。十六日には、「区は地元商業者の意見を十分に聞いていない」「地区計画案への住民の意見書提出の際、賛成意見を誘導する行為があった」などとして、諮問の中止を改めて申し入れました。